

学校長御留書

加古川市立志方東小学校
 令和5年度
 学校便り夏休み特別号
 第10号
 R5.8.10発行

戦争は意味のない打壊し 永井 隆

右の記事が、8月8日(火)の神戸新聞朝刊に記載されていました。永井隆博士が記した著書のテーマは「原爆、人間、愛、平和……」いずれも博士自らの体験をもって後世に伝えておきたいと願ったメッセージ性に富んだ作品ばかりで、なかでも『長崎の鐘』『この子を残して』は名高い作品です。今回収められる未発表原稿は、『長崎の鐘』の当初の題名『原子時代の開幕』の序文とみられ、ご本人の署名が薄く記されているそうです。「戦争を起こさないでください! 戦争はこんな意味のない打壊しです。戦争は人類の恥です。戦争は人類の犯した大きな過失でした。」と、永井博士の切実で強いメッセージが伝わってくるような文章です。

「長崎の鐘」の未発表原稿を収めた「永井隆全集 第四巻 書画集」が、原爆の日(9日)に出版される。改訂前の序文とみられ、戦争を「意味のない打壊し」と表現した。出版社の担当者は「この思いこそ永井の原意ではないか」と話す。

師永井隆博士(1908〜51年)の代表的な著書「長崎の鐘」の未発表原稿を収めた「永井隆全集 第四巻 書画集」が、原爆の日(9日)に出版される。改訂前の序文とみられ、戦争を「意味のない打壊し」と表現した。出版社の担当者は「この思いこそ永井の原意ではないか」と話す。

「長崎の鐘」の序文か

これまでの巻から約20年ぶりの刊行で、手紙や水彩画約10点を収めた。長崎市と島根県雲南市にある「永井隆記念館」や「長崎の鐘」出版に力をつけた精神科医・堀内二郎の旧蔵、千葉県市川市などで保管されていた数々の資料をデジタル化。東京都新宿区出版「サンパウロ」の水野宏美さん(51)らが3年ほどかけて完成させた。

未発表原稿は48年6月に書かれた。「長崎の鐘」の当初の題名「原子時代の開幕」の序文とみられ、本人の署名が薄く記されている。「戦争を起こさないでください!」戦争はこんな意味のない打壊しです」と切実な思いが込められる。

約半年後に改題して出版

「長崎の鐘」の序文か

「戦争は人類の犯した大きな過失でした。」と、永井博士の切実で強いメッセージが伝わってくるような文章です。

「長崎の鐘」の序文か

「戦争は人類の犯した大きな過失でした。」と、永井博士の切実で強いメッセージが伝わってくるような文章です。

永井隆博士(長崎市永井隆記念館提供)

『長崎の鐘』の当初の題名『原子時代の開幕』の序文とみられ、ご本人の署名が薄く記されているそうです。「戦争を起こさないでください! 戦争はこんな意味のない打壊しです。戦争は人類の恥です。戦争は人類の犯した大きな過失でした。」と、永井博士の切実で強いメッセージが伝わってくるような文章です。

平和を願う折り鶴募集 —加古川市—

加古川市では、広島市の「原爆の子の像」と長崎市の「平和祈念像」に届ける折り鶴を募集しています。集まった折り鶴は、11月25日(土)に加古川市民会館で開かれる「平和祈念展」で展示した後、広島、長崎に届ける予定だそうです。平和について考えてもらうため毎年実施しており、



昨年は約39万8千羽が寄せられたそうです。募集は、9月15日(金)まで。市内の各公民館、市役所1階ロビー、加古川市人権文化センター、加古川市ウェルネスパークの計15か所に、折り鶴と募集箱が設置されています。折り方説明のプリントが添えられているので、忘れていたり知らなくても大丈夫です。また、加古川市総務課では、折り鶴に糸を通して千羽鶴を作成するボランティアを募集しているそうです。